

’10年度 卒業式特集



① 体育館での卒業式会場設営で大活躍の部員たち
② 卒業式第一部
③ 卒業証書&思いでいっぱいのDVD
④ 感動の卒業生入場シーン
⑤ 先輩への思いが詰まったバラ
⑥ 卒業式第二部

入場する一人ひとりの顔に自信と誇りがあった。今日のこの日を迎えるためにあったこの3年間。

楽しい時間も、苦しい時間もいつか必ず通り過ぎていく。長いようで短い3年間。

それでも一日一日の積み重ねはやがて彼らを人としてたくましく成長させてくれた。

慣れ親しんだ友や先生、教室と別れるのは名残惜しい。しかし、後ろを見ずに前に向かって旅立つとき

そんな彼らを笑顔で送ろう。今日は彼らの人生の新たなスタートなのだから。

卒業生へ贈るメッセージ

運動系クラブ	メッセージ	文化系クラブ	メッセージ
柔 道	闘魂 TEAM SHIGERU	放 送	みんな仲良く!平和がいちばん!
野 球	文武不岐	吹 奏 楽	いつも自分のハーモニーを奏でて
陸 上 競 技	我が道突っ走れ	合 唱	心に太陽を唇に歌声を♪
サ ッ カ ー	あまえるな	情 報 処 理	自分の決めた道を信じて...
男子ソフト	一打の美学	演 劇	未来へつなげる自分のドラマ
女子ソフト	昨日から学び今日を生きよう	写 真	シャッターは一瞬、思い出は一生。
男子ハンド	先輩ありがとうございました	茶 道	その道に入らむと思ふ心こそ わが身ながらの師匠なりけれ
男子テニス	劣勢なときこそポジティブに!!	華 道	希望
女子テニス	NEXT CHALLENGE	書 道	まず食うこと、それから道徳
男子バスケ	小次郎 アリガトウ	囲 碁 将 棋	名人に定石なし
女子バスケ	勇気は夢を叶える魔法	文 芸	十人十色
男子バレー	笑えばいいと思うよ。	漫 画 研 究	我が生涯に一片の悔いなし
女子バレー	挑戦なくして成果なし	料 理 研 究	未来に向かってcooking(クッキング)
バドミントン	先輩だいすき	フ ェ ー ク	おんがくバンザイ
女子蹴球	GOAL		
ラ グ ビ ー	楽しく苦しく美しく		
乗 馬	駆け抜けろ		
ダ ン ス	We love DDC		

	メッセージ
父 母 一 同	「ありがとう」感謝の気持ちを忘れずに
教職員一同	夢に向かってまっすぐ進め

応援団	メッセージ
おやじの会	一念天通
学園父母懇	翔べ
フェス実行委員会	未来への夢と共にに羽ばたけ
同朋同窓会	GET YOUR FUTURE ～迷ったらここに帰ってこい～

1年生	メッセージ
101	coming true!!
102	ライフ is ビューティフル
103	朋
104	ピンチはチャンス
105	Tomorrow never knows
106	自分に負けるな
107	先輩は何か持っています
108	おつかれさん
109	つかれたらわらいとばせよ サランヘヨ
110	それいけ! 同朋生
111	前につきすすめ その一歩が道を造り出す
112	先輩方は才能のカタマリです

2年生	メッセージ
201	人の夢は終わらねえ!
202	明日への扉を開け!
203	はばたけ未来へ
204	自分の道を突き進め
205	夢は翼 そして空へ...
206	挫折こそ夢の一步
207	この先もずっとずっと同朋生
208	線
209	努力するほど自分に返ってくる
210	Make ～未来は自分で造るもの～
211	日進月歩 するかのごとく 突き進め
212	どの道を選ぶかより選んだ道でどう生きるかが大事

商業科

三年間の学習の成果が実りました

今年度の商業科は、生徒に学ぶ楽しさを理解させ、学習意欲を高めるために、各種検定試験の受験だけでなく、学校外で開催される競技会など積極的に参加しました。

1月10日に、愛知県私学協会が主催する私学商業実務競技大会が開催されました。本校商業科からは、簿記の部に2・3年生の有志生徒が出場しました。また、ワープロの部には学内選考会「同朋タイピングコンテスト」の結果、優秀な成績を納めた生徒が出場しました。生徒の奮闘の結果、この大会で各部門とも入賞することができました。その他にも今年度も全国商業高等学校協会が主催する検定試験を中心に受験させ、例年以上の合格実績を残しています。

近年の商業科は、教員が生徒に無理に

検定試験などに挑戦させるのではなく、生徒自身が「次はどの検定試験合格をめざそうか」「何を目標にしようか」と考えるようになっていきます。そうした成果が表れたからか、今年度は愛知県知事より「職業教育技術顕彰」が授与された卒業生が17名も誕生しました。

検定試験や競技会への出場を一つの目標にしなが、よりよい進路選択を実現するために、在校生の皆さんには商業科の授業を通して高い専門的職業能力と社会変化への対応能力を身につけてもらいたいと思います。同じように、教員もそうした授業を実現できるよう、さらに努力を続けてまいります。

(教諭 平野)

愛知県私学協会主催 第30回私学商業実務競技大会

- 簿記2級の部
団体競技2等 同朋高等学校
川井康裕(豊正中) 清水沙弥香(愛西永和中)
鈴木見彩子(七宝中) 柳本美聡(名塚中)
横山おりえ(春日井西部中) 米満舞(当知中)
個人競技2等 横山おりえ(春日井西部中)
- 簿記1年生の部
個人競技2等 川田高弘(日比津中)
- ワープロの部
個人競技佳良賞 児玉英駿(菖目寺中)

全国商業高等学校協会主催

- 簿記実務検定試験
1級合格者 4人(原価計算科目のみ合格9人)
2級合格者 78人
3級合格者 98人
- ワープロ実務検定試験
1級合格者 21人
2級合格者 52人
3級合格者 101人
- 情報処理検定試験
1級合格者 1人
2級合格者 15人
3級合格者 78人
- 珠算・電卓検定試験
2級合格者 27人
3級合格者 28人

実務技能検定協会主催

- 秘書技能検定試験 3級合格者 8人



Schedule
〈行事予定〉

4月			
5	火	在校生登校日	21 木 2・3年生過足
6	水	入学式	23 土 PTA常任委員会
7	木	始業式	28 木 見真の日
15	金	クラブ総会	
19	火	1年生フレッシュマン合宿(～21(木))	

5月	
14	土 PTA総会・学級懇談会
17	火 中間考査(～20(金))
20	金 ウエサカ祭、避難訓練
26	木 見真の日
27	木 体育大会

感動 感激

感謝

それぞれの思いが

詰まった卒業式



2010年度

合唱構成詩「一步」

1. 入学式
・初めて見る校舎、初めて見る先生と同級生、全てが初めて見るものばかりで新鮮だった。
・窓三面に張り出された自分の名前を見て、この高校の生徒になるんだと実感した。
・緊張した。誰も知り合いがいなかった。入学式も一人で心細かった。
・でも、隣に座っていたクラスメイトに思い切つて声をかけた。
・そうしてできたのがこの学校最初の友達たち。

- ・苦しんでいたことも全然気づいてあげられなかった。ごめんね。進級が危ない子の最後のテスト。もつとごめんね。一緒に勉強して教えてあげることができたのに……。違うクラスで「つまらない」「学校に行く意味がない」と言つてやめてしまった友達。もつと一緒にいて、支えてあげればよかった。本当に本当に……。後悔だらけだ。

8. 商業科
9. 音楽科
10. 部活動

- ・強烈な打球が、自分のすぐ横に飛んできた。必死で飛びついた。しかしボールは、自分のグラブをはじいて、試合が終わった。仲間達と、奇跡を起こした試合だった。九回、ツアアウトから四点差を追いついた、あの夏の試合。自分が最後の打球をつかめなくて、終わってしまった、あの試合のことを、今も夢に見る。誇らしいけれど、うれしい思い出が、今も自分の心に残っている。
・部活を辞めようかと本気で迷つていた時期があった。頑張つて練習も沢山していたけれど、いい結果が出なくて日に日に練習が嫌になつていった自分がいた。そんな時でもなんとか練習を続けて最後までやり通すことができたのは、部活の仲間がいたおかげ。
・部活を三年間続けてきて最高の仲間に出会った。最初は意見がバラバラでまとまらないチームだった。最後の試合、強豪揃いの愛知県でベスト4になった！それは最高のチームワークだから、助け合えたからだ。私は確信している。このチームでキャプテンとしてツケが出来たこと、そしてなにより最高の仲間に出会えたことが私の財産となっている。

- ・夏の大会。私たちは「一点オンゴールをして追いつかれ、PK戦になった。私の力不足でなかったのかと思うと悔しくて涙が出た。けど勝つ事し頭になかった。だから5人全員決めた。サッカーなんてやりたくないってよく反発していたけど、いつの間にかサッカーが大好きになつてた。こんなに楽しいスポーツを教えてくれた裕くんに感謝してるよ。
・二年のとき、八頭いた馬は三頭まで減つた。生き物を扱うから休みなんて無かったし、未調教の

2. フレマン

- ・春、いきなりフレッシュマン合宿があつた。周りには、まだよく知らない子たちばかりで、とても不安だった。
- ・予定には勉強、勉強、勉強……。うんざりして、行く前は本当に嫌だった。
- ・でも、当日実際にへ行つてみると、とても楽しくて、すぐにたくさん友達ができた。
- ・嫌なはずだった勉強合宿がとっても楽しいお泊まり会になった。
- ・難しかった基礎検も、友達と一緒に教え合い、合格を積み重ねることができた。
- ・夜には本当に遅くまで喋りまわつた。帰りのバスでは、つらかったはずの合宿が終わるのに、少しさみしい気分になった。

3. 体育大会

- ・二年での体育大会は雨で中止になった。体育館での応援合戦は少し盛り上がりにかけていた。
- ・三年生の先輩たちが、どうしても外でやりたいと声を張り上げていた。その姿を見て、先輩達の熱意に心打たれた。
- ・二年での体育大会は、群団長として迎えることになった。三年生のいない群団で、とても戸惑つた。何をしたらいいかわからないまま、体育大会が近づいていった。
- ・部活が終わつてから、毎日近所の公園で練習して地域の方に迷惑をかけてしまつたり、教室をベソキまみれにしてしまつたり……。いろいろあつた。だけどクラスのみんながすべて協力してくれて、応援を完成させることができた。
- ・友達の大切さを改めて実感した。いい体育大会だった。
- ・三年の春私は推薦され、軽い気持ちで体育大会の群団長になった。思つていた以上に群団長は大変で何度も座折しそうになった。そんな時励ましてくれた担任の先生や協力して助け合つた友達がいたから最後まで頑張れたんだと思う。団長をやり遂げ、私は根気と自信をつけることが出来たと同時に、友達の大切さを身をもて感じる事ができた。

4. 文化祭

- ・みんな聞いてくれ！「いつも控えめな委員長がクラスメイトに訴えた。準備に誰も残つてくれない日が続いていたから。」
- ・委員長の本気にみんな心を打たれた。その日から仲間がづなりました。
- ・みんなの活躍で制作物がクラスに出来上がったとき、本当に最高の気分だった。
- ・二年生の時、最先端医療について研究した。自分でも詳しく知らなかった事を他の人に分かりやすくまとめるのは、思つていたより大変だった。
- ・途中で嫌になつたりもしたけど、友達と一緒に頑張れた。教室にできなかった手術室も、みんなの協力があつてできた。
- ・放送で、自分のクラスがアカデミー賞を取れたことを聴いて、初めて救われた気がした。
- ・三年生のクラス演劇では舞台監督をやつた。今まで人前に立つたことなんてほとんどなくて、クラスをまとめることなんて全くなかつた。毎日辞めたいと思いが学校にやつてきた。
- ・でもたくさん友達が背中を押してくれた。結果、アカデミー賞は自分になったけど、おかげで前に踏み出せる自分になった。

5. 修学旅行

- ・初めて乗った飛行機。初めて食べたサトウキビ。初めて聴いた三線の演奏。沖縄には「初めて」が詰まつていた。
- ・那覇中央教会に着いて、金城重明さんに講演をしていただいた。耳に残したのは「集団自決」という言葉。
- ・「生き残ることが恐怖だった」「だから愛する人や両親に手をかけ、死を選ぶしかなかった」……。その言葉には本音の重さがこもつてた。
- ・夢を持つて生きている途中に起きた沖縄戦。考えもしなかったことが起きて、全ての自由がなくなつた。戦争はとても恐ろしいもの。思い出すのもつらいのに話をしていたら本当に感謝している。
- ・僕たちはそこであつたことをいろんな人々に伝えていかなければならない。平和は創造していくものだ。僕たちは教えられた。

6. 様々な行事の中で

- ・思い返せば、本当にいろんなことがあつた三年間だった。
- ・名古屋ドーム祭典では、模擬店を出したり、クイズや生徒会の合宿があったり……。白馬合宿や、オーストラリアへのホームステイも、望めば行くことができた。
- ・色々なところに、「きっかけ」が転がっていた。いつもその、「きっかけ」の入り口で悩んだり、とまどつたりしながら、僕たちは前へ前へと進んできた。

7. 日常

- ・だるい感じで月曜日をむかえ、実験のレポートを書かされ、HRをやり過ごし、選択や体育の授業を乗り切つたら金曜は掃除をさぼつてさうさと帰る。
- ・毎週同じスケジュールで過ごしていた毎日をつまらないと感じていたけど、それつてすべて幸せなんだつてわかつた。
- ・それは友達がいなかった。友達という時間が楽しいから学校へ行くのが楽しみだった。
- ・もう嫌だ！この三年間何度も学校を辞めたいと思い、親々に相談した。
- ・「私も思つたことあるよ。けど一緒に卒業しよう！」この言葉に何度も救われた。この三年間のすべての出会いが、私の人生でとても重要なものとなつている。

- 馬は難しく、暴れて落とされたこともあつた。それでも、続けられたのは、日に日に言う事を聞いてくれるようになった大好きな馬達や支えてくれた仲間、そして私がやめそうになつたとき、引き止めてくれた先生がいたからだ。
・僕らにとつて最後の試合、これまでの三年間、一気に巡つてきて、試合の前から皆で泣いてたわけ。相手は強豪校、決して楽な試合ではなかつた。僕らは無得点のまま、点差だけがひらいていった。それでも誰一人、諦めなかつた。最後のプレー。皆で掴んだあのトライは一生忘れない。奇跡は起きるものじゃない。起こすものなんだつてあの時強く思った。
・最後のリレーは大雨の中。スタート前、雨も気にせず四陣を組んだ。引退するのはもちろん三年のみ。だけど後輩達は「生懸命バトンを繋いでくれた。そのことが嬉しくて限界まで走りきれた。ゴール後、倒れた僕を迎えてくれた皆。誰ひとりかけてはいけない大切な仲間だ。」
・なんとなくで入った部活、週に一回、お茶をたてたり、和菓子を食べたり。特に試合や大会があるわけでもないけど、私はこの雰囲気が好きだった。茶道部が私の居場所のひとつだった。文化祭は腕の見せ所！お茶会に友達や先生を呼んで晩前を披露した。去年までは存続できるか不安だつたけど、今は頼れる後輩がいる。これから先、頼んだよ！

11. 進路

- ・生まれて初めて進路に悩んだ。今まで何となくでやり過ごしてきた。ツケがまわつてきたんだと実感した。そのせいでたくさんの先生に迷惑をかけた。
- ・親にも心配をかけた。たくさん悩んだ。これから先の長い人生に関わると思うと、不安だらけだった。

12. 家族

- ・高校に入学するまで、公立と私立とでは授業料にすごい差があるなんて、全く知らなかつた。だから、私は推薦で簡単に入れる同朋高校を受験した。

- ・私が授業料の格差について詳しく知つたのは署名集めるときだった。あまりの格差の大きさにショックを受けた。同時に申し訳なかつた。
- ・私が高校受験で楽をしなければ、もつと安い授業料ですんだのだ。そうしたら、両親は今のうちに休む間もなく働く必要はなかつただろう。
- ・同朋高校での生活はとっても楽しいけど、両親が働きに出かける姿を見ると胸が苦しくなる。お父さん、お母さん、ごめんね。
- ・両親に、浪人覚悟でその大学を目指してもいいかなんて聞けなかつた。だから、今の学力で入学できる大学に進路変更しようと考えていた。
- ・しかし、諦めきれなくて、悩んで悩んで、両親に進路について考えていることを全て話した。
- ・そうしたら、お父さんは「その学校に入りたくないなら、何浪してもいいから入つてみせろ！」と言つてくれた。
- ・応援されると思つていなかったからすべて嬉しかった。その言葉が支えになつて、今も必死に受験勉強している。お父さん、ありがとう。

13. 先生

- ・今まで本当にいろんな先生にお世話になつてきた。先生達の後押しで、私たちは、歩前に踏み出す勇氣をもらつてきた。
- ・同朋高校に来たことで今まで出せてなかつた自分を出すことができた。入学後自分から友達に話しかけることができなかった時、先生が書いたクラス通信の文章を読んで涙が出そうになった。そのおかげで自分は今、たくさんの友達がいる。自分から話しかけられるようになった、その「一歩」は、先生の言葉だった。

14. 一歩の瞬間

- ・私は私なりに成長してきた。入学式の時に高校三年間でやりたいと思つたことは、できた。私は漢検一級、英検準一級とを取得し、自分の努力の結果に表した。
- ・その代わりに辛いこと、苦しいことも沢山あつた。検定に一度落ち、悔し涙を飲んだ苦しさも、沢

- 山勉強しなければいけない辛さも体験した。しかし、それを諦めず、再挑戦したことで、精神的にも自分を鍛えることができたし、次の歩を踏み出した。これから高校を卒業しても、この一歩を大切に頑張っていきたい。
- ・俺は二歩を踏み出せなかつた。いろんなチャンスがあつたのにそのチャンスを掴むことができず、やりたいことがやらなかつた。そんなことが続き、自分がダメになりそうだった。だからこそ、一歩を踏み出す大切さに気付けた。
- ・同期にきたことで何ことにも積極的に挑戦していけるようになった。今までやったことのなかった実行委員にも取り組んだ。文化祭では友達と協力して作品を創りあげた。卒業式でも第二部の完成に向けて必死で頑張つてきた。自分にとつてこの三年間はまぎれもなく挑戦の「一歩」だった。
- ・私は元々人前で話すことができなかった。そんな一年生の私を担当した先生が変えてくれた。先生が背中を押してくれたことをきつかけにして、自分を変える大きな一歩を踏み出した。そして委員長や生徒会をやつて自信を持つことができた。人前で話すことができるようになった。
- ・高校生活での一歩。前進も後退もした。人の優しさを感じて自分を変えようとした「二歩」。信じてくれた人を裏切つてしまひ後悔に苦しんだ。歩、前後ろへと行き来を繰り返しながら、私たちは少しずつ未来への道を歩んでいる。
- ・高校三年間、いろんなことを学んだ。良いことも悪いことも。私がこれまでやつてこれたのも一歩踏み出したからだと思う。これから先、いろいろあるけど、歩踏み出す勇氣を持つて頑張りたい。そして自分なりの道を、この先の景色を見つめていきたい。

15. そしてみんなへ……

- 卒業生たちが精魂込めて作り上げた合唱構成詩「一步」。全文掲載したつたのですが、誌面の都合上大幅にカットせざるを得ませんでした。断断の思いでした。お許し願います。（編集者）

伝えたい～卒業生へのMessage～

学校長からの式辞



卒業生の皆さん、こうして改めて向かい合うと、3年前の入学式以来の時の流れが、いかに皆さんを逞しく、鍛え上げてきたのかがよくわかります。勉強や部活やクラス活動など、高校には生徒にとつて実に多彩な活躍の場があります。皆さんが辛い思いや悲しい出来事をどのような形で乗り越え、成果を上げてきたのか、今日の卒業式第2部の構成詩が大変楽しみです。

私は皆さんの在学中ずっと、とにかくなんでもあれ一生懸命努力するように呼びかけてきました。あらためてこの3年間の出来事を振り返ってみてください。夢中になってやった瞬間がだれにもきつとあるはずです。例えば基礎検に合格してほつとしたこと、体育大会の応援合戦で先頭に立つて大声をあげ、最優秀を取れなくて悔しい思いをしたこと。冷静に考えれば、ただ小さな思い出の一つに過ぎないかもしれませんが、その体験はきつとこれからの人生で出会う様々な困難に立ち向かう勇気を与えてくれると信じています。

私が皆さんに願うのは、どのような進路に進もうと、生きていく限りもつともとよく学び、新しいことにどんどん挑戦していつか欲しいということです。

何かの目的を持つて努力することはとても偉いことです。日ごろから私たち教員も成績を上げるために頑張れとか、目標の大学に入るためにはこれだけの勉強が必要だ、また資格試験に合格すれば将来有利になる、といった言い方で君たちの奮闘を促してきた面があります。

その成果が出るたびに、教員も嬉になつて喜びあつたものです。しかし目先の利益を求める勉強には限界があります。

例えば大学に入るための勉強ということであれば、必要な学びと必要でない学びの区別があります。しかし本来、必要でない学びということがあるのでしようか。数学を学ぶことで論理的思考力が育つように、全ての学びに無駄なものはありません。

ものはありません。部活動や行事で得られた感動や悔しさも決して無駄にはなりません。

私たちは見える範囲の世界を見て、自らの能力を自分で査定した末に、かなうかどうか可能性を計算し、なりたいたい自分や目標を設定していきます。

しかし、同じ対象を見てもそれぞれの教養や体験によつて見え方や重要性、応用可能性は変わってきます。もつとたくさんを知ることで物を見る目を養い、また必死に努力するという経験から学ぶことで、自分が本当にやりたかつたことや、自分の中の隠れた才能が引き出されてくるのではないのでしょうか。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人の第750回御遠忌のテーマは「いま、いのちがあなたを生きている」です。どれ一つとつても、かけがえのない尊い命は、あなたの中であなたの有り様で、懸命に生きています。勉強が出来るとか、運動が得意とかいうようなことだけで、これは大切な命で、あればつまらない命、などといったことがあるはずがない。どの命も、あなただけが持つ、個性や可能性を信じて真面目に努力しなければなりません。

父母の方々には、在学中の様々な父母活動や学校行事にご協力を頂き、まことにありがとうございました。出来ますれば、こうしてできた縁を忘れず、今後とも同朋の教育の発展のために、少しだけお力をお貸しただければ、と思います。

(同朋高等学校校長 河合博)

父母からの祝辞



卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

「おはよう」「おはよう」ございます。校門や教室で聞かれた声、同朋の朝の風景も今日で終わりました。三年間はあつという間に過ぎてしまいましたね。みなさんがかけがえのない時間をこの同朋高校で過ごしたと思つています。

私は以前、「出会いには偶然ではなく、必然だよ。」と言われたことがあります。同朋に入学という縁があつて同朋生になり、この縁が一つの大きな出会いをみなさんにもたらしてくれました。

二つの出会いは、校長先生をはじめ諸先生方、特に、三年間、みなさんの一番近くで共に過ごしてくださつた担任の先生方との出会いです。クラスの中、部活動、学校行事、さまざまな面で導き、見守ってくださいました。そして二目が仲間との出会いです。楽しいこと、嬉しいこと、苦しいこと。共有してくれる友達がいれば、初めて高校生活が成り立つてきたと思います。どうぞ、これからもこの縁を大事にして下さい。

四月から新しい場所でスタートです。また「始めの二歩」です。わくわく、ドキドキ、期待や不安でいっぱいと思いますが、大丈夫です。みなさんはこの三年間で成長したのですから。

でも、二つだけ覚えておいてください。私たちは親は、自分たちの親がしてくれたように、どんな時も、いくつになつても、子どもであるみなさんのことを気にかけて、想つていることを、どうか忘れないで下さい。

最後になりますが、先生方には、親がかけられない言葉、気遣いをしていただき、子どもたちは無事今日の日を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。今後、子どもたちが卒業生として、学校を訪れる時もあるでしょう。どうぞ、今まで通りの言葉と笑顔で、迎えてやって下さい。本当に三年間お世話になりました。

(卒業生父母代表 久禮裕子)

PTA会長からの祝辞



お祝いのメッセージを語らせていただくにあたり、私からは、2つのメッセージをおくりたいと思います。

一つ目は、これから長い人生を歩んでいくにあたり、常に「夢」を持つて生きていくて下さい。それも、自分の人生10年先、20年先、30年先を真剣に考え、本当に真剣に考へて自分の夢を持つて下さい。そして、その夢の形を、具体的に表現して：例えば、絵に描くとか文字にするとか：とにかく、目に見える形にしてください。

次に、その夢を、必ずやかなえるんだ、と思ひ込み、毎日それに向かって、自分の将来を思い描いてください。そうすることで、自分の目標がはつきりとし、その目標に向かって、何をしないといけないのかということが、見えてきます。夢を考える中で、やるべきことが沢山ありすぎて「もういいや」とうんざりするのであれば、その夢はにせものです。なぜかという、夢は、自分の一番好きなことのはずだから、かなえるための努力は、おしまないし、苦にならないものです。なかなかそんな何十年も先のことを思い浮かべるのは難しいかもしれませんが、ぜひとも、自分の目標(夢)を持った生き方をしてください。

二つ目は、心から「ありがとう」を言える人間になつて欲しいです。口先で言うことは簡単ですが、本当に心から「ありがとう」を言えることは、難しいことだと思います。よく、人は人では生きていけないといいますが、考えて見れば、自分の周りには、いつも誰かがいる状態になっているはずです。生まれたときには、親がいて、家には、家族がいる。学校に来れば、友人がいれば、先生もいる。誰かが、周りにはいるものです。その周りの全ての人のと係わり合いが、自分の人間としての成長を手助けしてもらつていんだと思えるように、感謝の念を常に抱けるようになって欲しいです。

先日、お体を悪くした生徒さんの親御さんの話を聞く機会がありました。その親御さんは、お子さんのために、3年間全く休まず、学校の送り迎えをしていたそうです。多分、親としては当たり前のことをしたと思われていると思いますが、お子さんにとっては、大変ありがたく、大きな感謝を抱えていることと思います。それだけでなく、お子さんにとっては、大きな成長があつたと思ひますが、さらには、その子の周りにはいる子供達も、周りを気遣う行動が出来たようになったと聞いています。そういうところでも、人は人によつて成長させられることを感じられますし、そこには、やはり感謝を感じずにはいられませう。ですから、是非皆様も、周りに対して常に感謝の念を抱き、成長させてもらつていんだと思つて欲しいと思います。

(PTA会長 吉田男)

最後のHOME ROOM



301



302



303



304



305



306



307



308



309



310



311



312



PRECIOUS MEMORIES



卒業生最後の大作



在校生がお世話になった卒業生へ思いを込めて丁寧に作り上げるバラ



みんなの記憶に残る卒業式にするために
精一杯やり遂げた卒業式在校生企画委員たち

合宿、激突、舞台裏の円陣… この卒業式実行委員会を忘れない。

306 伊藤 安里
(宮中学校出身)

「自己満足で終わらせない。」これが私たちの最初の目標でした。今まで中心になってやっていたの、始めは不安を抱きながら動き出していきました。しかし、日を重ねることに不安は消えていき、チーフ内で強い団結が生まれました。また、チーフの団結と共に実行委員・朗読者など、卒業式を創りあげていく仲間との団結は、とても強いものとなりました。この強い団結ができたのは、ぶつかったり、涙したりしながらも一緒に支え合いながら頑張ってきたからだと思います。

「絶対成功させよう！」卒業式が近くなると、皆が口にしていた言葉でした。成功が何なのか、その時にはわからなかったけれど、卒業式が終わって、皆の涙を見て、私は成功したんだと確信しました。

私たちは、高校生活の最後に大きく成長して卒業することが出来ました。すばらしい卒業式ができたのは、最高の仲間、先生、後輩のみんなが協力してくれた色々な部活動のみんながいたからだと思います。支えてくれた皆に、心から感謝しています。ありがとうございました。



ありがとう…先輩

206 鈴木 滯夏
(大町町立大町中学校出身)

同朋高校に入って、二度目の初春、二度目の卒業式を迎えました。送り出す側最後の私たちは、後輩に何を残し、先輩に何を伝えることができたでしょうか。

三年生とのかかわりのほぼない私は、先輩方の卒業に関して大した思いはありませんでした。ところが式の約三日前に仲良くなった先輩がいました。先輩の卒業に何の思いもなかった私も、急に寂しさを感じるようになりました。明日を過ぎたら先輩はもういないという現実が、急にリアルな感覚になりました。

式の当日。おめでとうの気持ちより、悲しいという気持ちが勝っていた私は、たくさんの方で涙しました。実行委員でもない私にできることは、精一杯の合唱と拍手でした。先輩に感謝が伝わるよう、「同朋の卒業式」が後輩に残るよう、大きな拍手をしました。私は何かを伝え、残せたでしょうか。先輩方のように、感動を残せるように。送る側最後の卒業式でした。先輩、本当にありがとう。

同朋高校卒業式に 初めて出席して

107 岡本 早織
(弥富市立弥富中学校出身)

私にとって、今年の卒業式はとても感動し、また、忘れられない式になったと思います。私自身、同朋の卒業式は初めてで、今まで経験してきた卒業式とは違ってとても印象的でした。特に、在校生企画の「夢は生きる力」はとても素晴らしいです。他の文字は崩壊して空中に浮いている中、「夢」という文字は崩壊してしまわないようにハブリングもあつたけれど、そのハブリングも含めて一生心に残る式で、とても大事な思い出になったと思います。卒業しない私でも、涙が出てしまいました。

今回の式を振り返って、卒業生が涙を流したのは、高校生活で各自が何かを頑張ってきたからだと思います。だから私も残りの約二年間で、いろいろなことを経験して、二つ乗り越えて、部活や勉強に打ち込んで、卒業するときまでは、高校生にしか作れないような思い出を友達、先生、家族と共に作り上げていきたいと思いました。とにかくこの式に出席できて本当に良かったです。

